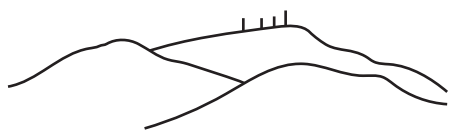


Youth Manna

2021/4/12 - 4/18



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/4/12(月)

I 歴代誌 9:28-44

昨日の箇所が続いて、レビ人の役割が記されているよ！ 14-27 では神殿の警護や宝物倉の管理が、28-34 では礼拝に用いるものの管理と賛美に関わる人たちのことが記されているね。音楽が礼拝に用いられるのは、ずっと昔からのことだったんだね。神様にささげる礼拝に音楽をふさわしく用いていくことは神様が与えてくださった素晴らしい方法の一つだよ！

今日で歴代誌の長い系図も終わりです。この系図が書かれたのは、捕囚から帰還した民が原点に立ち返って歩み出すために、自分が何者であるのか、神様がどのようにイスラエルの民に向き合われたのかを知るための大切なことだったんだ。

自分がどのようにしてイエス様を信じるようになったかを思い出そう！そして、自分がどのように歩むべきか、神様から聞いて従おう！！

2021/4/13(火)

II テサロニケ 1 章

テサロニケの教会の人達は迫害と苦難の中でも互いにますます愛し合い信仰を成長させていました。それは神の国にふさわしい人と認められるように神様が助けてくださっていたからです。パウロは耐えている教会に対して、主の日には正しい裁きがあり、今苦しめられている信仰者には安息が与えられ、苦しめている者は裁きがあると励まし、正しい裁きがあるからこそ、召しに相応しい歩みをして主の栄光を現し、あずかる者になってほしいと言っています。

●苦難の中でも私達は成長しているだろうか？

●主の正しい裁きがあることを知る時、私たちが変わるべきところはどこだろうか？

2021/4/14(水)

II テサロニケ 2 章

パウロは、主の日がすでに来たかのように教える偽りについて注意を与えている。ある人たちはそのような偽りの教えに惑わされ、落ち着きを失って心を騒がせていたようである。それに対しパウロは、主日はまだ来ておらず、その前には不法の者が現れると教える (3)。神は惑わす力を送られ、「自分を救う真理」を信じない者は滅びることになる (10.12)。しかし、主に愛されている者は救われる。そのため私たちは、堅く立ってみことばをしっかりと守る必要がある (15)。

祈り：イエス様、すでに世に勝ち、常に私たちを愛してくださり感謝します。苦しい時、みことばに堅く立っていられるよう助けてください。

2021/4/15(木)

II テサロニケ 3 章

パウロはテサロニケの信徒たちのことを祈るとともに、私たちのことも祈って欲しいと要望した (1,2 節)。一つは福音が早く広まるように、もう一つは自分たち宣教者の守りである。パウロは祈りの必要を痛感していた。

また 6 節では「怠惰な歩みをして、、、従わない兄弟は、みな避けなさい。」ここの怠惰とは、真にキリストに従わない者をさしている。そして 14.15 節には、そのような人たちが自分の間違いに気づいて悔い改める必要があることを諭すようにと書いてあるね。

真にキリスト者として歩み続けることはすごく難しい。すぐ目の前にはたくさんの情報や逃げ道がある。つまづいたり、倒れたりすることもあるかも知れない。だからこそ仲間の祈りは大切である。励まし合い神様の愛に生きよう！必要があれば相談してみよう！

ボーイズビー
アンビシャスデー 2021/4/16(金)

詩篇 95 篇

▶7 節の後半と 8 節をもう一度読もう↓

今日 もし御声を聞かぬなら あなたがたの心を頑なにしてはならない。メリバでのように 荒野のマサでの日のように。

▶「メリバ」と「マサ」は同じ地名だ。その場所で、イスラエルの民はモーセに激しく不満をぶつけた。飲み水がなかったことが理由だけど、その直前に民は食べ物で不満を言い、マナを受け取っていた。モーセを通して御声を聞いても、民は態度を変えていなかったんだ。

▶「頑な」というのは、意地になって自分の態度を変えないことだ。私たちの中にも、聖書を通して御声を聞いているのに、変えていない部分はないかな？今日もし御声を聞かぬなら、あなたの心を頑なにしてはならない。

2021/4/17(土)

詩篇 96 篇

今日の箇所を書いた人は神様のことを本当に喜んでいるね。救いの良い知らせ、みわざと言った歴史的にも大きなことをしてくださった方が、自分の身近にいる同じ神様だってことを感謝して栄光をお返ししていたんだ。そして、大きな自然や国々にも主を礼拝しようと喜んで呼びかけた。

それくらい全ての栄光は神様のもので、神様は本当に大きな方なんだね。そして神様の恵みを受け取った私たちには、それをまだ知らない人へ渡していく役目が与えられている。

毎日、主に栄光をお返ししていこう！そしてそれを周りの人々に表していこう！

2021/4/18(日)

詩篇 97 篇

異教社会の中で自分たちの無力さを感じ、少数であるがゆえに、劣等感を感じていたイスラエルの人々は、そんな中であっても、「主は王である」と歌い、唯一まことの神様に心に向けていました。

私たちも日々の生活の中で、思い通りにいかないことや、うまくいかないこともあるかもしれませんが、イエス様を信じていても、つらい気持ちになることもあると思います。それでも王である方を信じて歩み、主を待ち望む者には、光が与えられます (11 節)。

光や喜びは遠くにではなく、いつか将来にではなくすぐそばに、私たちと共にあります。「わたしは光として世にきました。私を信じる者が、だれも闇の中にとどまることのないようにするためです。」(ヨハネ 12:46)

王としてこられた、光であるイエス様のことばを思いめぐらし、イエス様にとどまることのできるように祈ろう！